

3月は恒例の「七折梅見」から幕開けです。

Yさんの故郷、七折は梅の名所。

山全体に梅が植樹されており、車で登攀していくところから四方の紅梅・白梅に気持ちが弾むのです。今年は「梅まつり」も再開、ということでしたが密を避けるため開催後の平日を選び出かけました。売店のある所はあまり見頃でなく、さらに上を目指し歩いて移動するところが吾も紅…

フウフウ言いながらたどり着いた遊歩道は、他に人もおらず本当の穴場。一同周りを気にせずゆっくり散策できました。

おやつにロールケーキとコーヒーを持ってきたのは偉かったのですが（自分で褒める）フォークやスプーンという道具を忘れ…

「ま、吾も紅らしいやろ！」と開き直って「はい、皆さんアウトドアなので手づかみで食べてください」いつもの無茶ぶり…

「え〜と、私は後で頂きます」と上流家庭で育ったBさん、はにかみながら遠慮気味にお断りされていたのですが、みんなが普通に手づかみして食べているのを見ておそろおそろ手を出します。「え、え、えー…」かなり悪戦苦闘してクリームまみれになりながら、「ティッシュも忘れたので舐めてください」と言われて「ええー」と手をペロペロしていました。早くも洗礼を浴びてしまった…（お許しを〜）

そのそばでAさんは草引きに夢中。農家のAさん、せっかくの花見期間も上を見ずにひたすら下の草を見ていました。



次は菜の花、見奈良へ。そして3月末の24日に桜の開花宣言が出されると、吾も紅は「桜週間」となります。

「桜週間」は桜が散るまで続き、毎日必ずどこかの桜を探して出かけるというルールになっています。雨の日はお休み…ではありません。雨の日もよほどの大雨でなければドライブし、車窓から濡れそぼった桜の風情を愛でるのです。

これは、「桜が見れる季節は1年の内ごくわずかであり、ある人にとっては今年の桜が最後かもしれない」という西行法師の人生観にも似た決死行なのです。（言い過ぎかも？）

とにかく利用者さんを喜ばせたいという一心で、あちこち桜の名所を訪ねます。

まずは近くの岩堰へ。歩ける人は往復歩くというのがセオリー。普段日に当たらない人は車いすでお散歩がてら行きます。「花見」というより「遠足」に近い行事です。

足に自信がなく、車で行った人も赤橋を通過して石手川公園までは歩きます。よほどでない限り車いすは使いません。そして目に焼き付いたのは一面の薄桃色。こんなに綺麗な桜は初めて、と感動する人もいて、やはり自分の足で歩きながら風景を眺めることは大事だと思います。写真を撮りに来た花嫁さんや、可愛らしい子どもとお母さん、犬を連れた奥さん…などと交流できることも醍醐味の一つです。

ただ「花見しながらお酒と弁当が食べられなかったのが残念やな〜」（Sさん）。

自粛せずに心から花を楽しめる日が来るのはいつでしょうか。花見物語は4月に続きます。



このほか、2月に予定しながらできなかったU君の企画「手打ちうどん」を実行しました。

利用者さん自身が踏んだり伸ばしたり、と関われるところが魅力です。

野菜を切ったりおにぎりをにぎったり、かきあげをあげるのも利用者さんです。

みんなでワイワイするのが吾も紅流。「私作る人、あなた食べる人」ではありません。

「働かざる者食うべからず」なのです。

そうしてできあがったお手製うどん、去年より進化してもちもちした歯ごたえ。出汁も美味しく、大好評でした！！回を重ねるごとにどんどんうまくなっているのです、最終的には店が開けるかもしれません。料亭吾も紅、ぜひ食べに来てくださいね。(ただし働いてもらいますが…)

